

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成25年4月4日 (2013.4.4)

【公表番号】特表2013-501211(P2013-501211A)

【公表日】平成25年1月10日 (2013.1.10)

【年通号数】公開・登録公報2013-002

【出願番号】特願2012-521936(P2012-521936)

【国際特許分類】

G 0 1 N 21/958 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 21/958

【手続補正書】

【提出日】平成25年2月18日 (2013.2.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 9 6】

当業者は、第 2 照明ユニット F 2 を基板 3 6 0 の表面 B 1 の外側に配置した場合には、第 2 照明ユニット F 2、反射器 3 2 0、及び撮像ユニット 3 3 0 に加えて、第 4 チャネルは、第 1 偏光方向 F X 1 を具備する第 3 偏光コンポーネント P 3 と、第 2 偏光方向 F X 2 を具備する第 4 偏光コンポーネント P 4 と、更に包含可能であり、この場合に、第 3 偏光コンポーネント P 3 は、基板 3 6 0 の表面 B 1 の外側に配置され、且つ、第 2 照明ユニット F 2 と基板 3 6 0 の間に配置されており、且つ、第 4 偏光コンポーネント P 4 は、基板 3 6 0 の表面 B 2 の外側に配置され、且つ、反射器 3 2 0 と撮像ユニット 3 3 0 の間に配置されており、反射器 3 2 0 に進入する光は、第 2 照明ユニット F 2 によって照射されると共に第 3 偏光コンポーネント P 3 及び基板 3 6 0 を通じて透過した光又は第 2 照明ユニット F 2 によって照射されると共に第 3 偏光コンポーネント P 3 を通じて透過した光の基板 3 6 0 による散乱から導出される光であり、反射器 3 2 0 からの且つ撮像ユニット 3 3 0 によって受光される光は、反射器 3 2 0 によって反射されると共に第 4 偏光コンポーネント P 4 を通じて透過した光であり、且つ、基板 3 6 0 からの且つ撮像ユニット 3 3 0 によって受光される光は、第 1 照明ユニット F 1 によって照射された光の基板 3 6 0 による散乱から導出される光又は第 1 照明ユニット F 1 によって基板 3 6 0 に照射されると共に基板 3 6 0 を通じて透過した光であってよいことを理解するであろう。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 2 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 2 8】

画像処理モジュール C J は、上述の第 1 実施例に開示されている画像処理モジュール 2 5 0 と同一の動作原理である。具体的には、画像処理モジュール C J は、画像構築モジュール G J に接続されており、且つ、基板 J B の欠陥 Q を検出すると共に、欠陥 Q が画像 T T T 1 ~ T T T 3 のうちの 2 つの画像に出現する位置の關係に基づいて、欠陥 Q が基板 J B 上に位置しているのか又は基板 J B の内部に位置しているのかを検出するべく、画像構築モジュール G J によって構築された画像 T T T 1 ~ T T T 3 を処理するように適合されている。この場合に、欠陥 Q が 2 つの画像内に出現する位置が同一であるが、或いは、欠

陥 Q が 2 つの画像内に出現する位置の間のオフセットが最大オフセット Z L に等しい際には、画像処理モジュール C J は、欠陥 Q が基板 J B 上に位置していると検出し、且つ、欠陥 Q が 2 つの画像内に出現する位置が同一ではなく、且つ、欠陥 Q が 2 つの画像内に出現する位置の間のオフセットが最大オフセット Z L を下回っている場合には、画像処理モジュール C J は、欠陥 Q が基板 J B の内部に位置していると検出する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 3 0】

例えば、第 2 照明ユニット Z D 2 が光を照射する角度が、基板 J B の破れ泡が第 2 撮像ユニット C D 2 によって取得される画像内において可視状態とならないように、セッティングされると仮定された場合に、欠陥 Q が基板 J B の画像 T T T 1 内に出現するのが楕円であり、且つ、欠陥 Q が基板 J B の画像 T T T 2 内に出現しない場合には、欠陥 Q は、破れ泡として分類可能である。